

南の国の「ナデシコ」税理士

成功へのキセキ

第18回 ミナミの国で、お宝発見!!

バガンに行ってきました。
ミナミの国に来て3年目。はじめての観光ツアーです。

バガンは、約1000年前に、ビルマ族が最初に作った王朝都市です。日本で言うなら、奈良と京都を足して2で割ったような感じでしょうか。古い都という意味では奈良ですが、ミャンマー人の心の故郷、歴史に裏打ちされた高貴な美しさという意味で、京都に近いものがあります。

広大な森の中に、転々と佇む大小さまざまな寺院の数々。その数は、2000とも3000とも言われていますが、時代によって、建築様式も微妙に違い、赤レンガ造りのもの、優雅な白レンガ(←正確には、違うかもしれませんが)の建物など、私の知っているミャンマーとは、全く違う世界が広がっていました。

よくガイドブックやネットには、「ジャングルの中に点在する寺院」という書き方がされているバガン。熱帯ジャングルといえば、マレーシアのボルネオ島とか、オーストラリアのケアンズなどに行ったことがあるので、行く前の私は、うっそうとした熱帯雨林に隠れるように林立するお寺の群れをイメージしていました。木々に遮られて昼間でも陽が差し込まず、湿度が高いため少しジメッとした感じ。シダなどのつる草が絡まった寺院(パゴダ)。オリエンタルで、エキゾチックな世界。

けれどバガンは、そもそも熱帯雨林ではありませんでした。ミナミの国とはいえ、ヤンゴンから飛行機で1時間ほど北に位置しているせいか、森というよりは、草原に近い感じです。木々の色も、私が想像していた深緑色ではなく、若草色。行ったことはありませんが(笑)、地中海のオリーブの森に迷い込んだような気分です。

お寺といっても、木造ではなく、レンガ造りで、建物の先端が尖っているため、心なしか中世ヨーロッパの教会にも似ているのです。

オリーブの木々の間に、幾千と建つレンガ造りの教会…。

けれど、ここはまごうことなくミャンマー。アジアの中心です。一步、お寺の中に入ると、黄金色の仏陀が、忽然と現れます。またアンコールワットほどの規模ではありません

が、壁一面に、お釈迦様やヒンズー教の神様が、描かれているパゴダもありました。4~5メートルはあろうかと思われる天井にも、びっしりと仏教絵図が描きこまれています。

時間だけでなく、空間も飛び越えて、不思議な異次元の世界に迷い込んだような感覚。

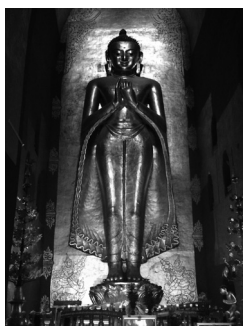
こんな素晴らしい場所なのに、ミャンマーという国は、まだ自国がもつ観光資産の価値に気がついていないので、観光地としての知名度はほとんどありません。来ているのは中国人と、ヨーロッパからの観光客程度でしょうか。

世界遺産に登録されてもおかしくない遺跡群なので、近いうちに、欧米資本が参入してきたら、あっという間に、ツアー客が大挙しておしかけると思っています。ぜひ、今のうちにレッツ・ゴー、バガン!

バガンに行くには、ヤンゴンから飛行機で1時間程度。例によって、バスに翼の生えたような乗り物です。座席数は、40~50ぐらいでしょうか。なんとと言っても、飛行機なのに座席指定のない自由席。時間どおりに出発しないのは、アジアなら当たり前ですが、予定時刻より遅れるならまだしも、予定時刻より早く飛んじゃうこともあるのが、ミャンマーです(汗)。当然ですが、飛行場では出発のアナウンスもありません。バガン行きの飛行機はどれ?と、搭乗するまで、気が抜けないのも、いつものことです(笑)。

さて、無事に飛行場に着いたら、バガンへの入場料を払い、身分証明のようなチケットを入手します。これがあると、バガン内のどの寺院も入場料は無料。このシステムは、日本の観光地でも取り入れてもいいのではないのでしょうか。京都のお寺回りをするとき、毎回、入り口に並んでチケットを買わなくてすむなら、とっても便利だと思いませんか?

飛行場から、中心地まではタクシーで15分ぐらい。ホテルに着いたら、早速、馬車をチャーターします。なんとと言っても広いので、徒歩で回るのは、とても無理。と言って、タクシーで回るのはあまりにも味気ないので、馬車



黄金の仏像

◆筆者 原 尚美 (はら なおみ) プロフィール

税理士。東京外国語大学卒業。TACの全日本答練(現:全国公開模試)「財務諸表論」「法人税法」を全国1位の成績で、税理士試験に合格。直後に出産。育児と両立させるため、1日3時間だけの会計事務所からスタートし、現在は全員女性だけのスタッフ30名、一部上場企業の子会社やグローバル企業の日本子会社などをクライアントにもつ。ミャンマーに会計サービスの会社を設立し、海外進出支援にも力を入れている。著書に「小さな会社のための総務・経理の仕事がわかる本」「小さな起業のファイナンス」(いずれもソーテック社)、「51の質問に答えるだけですぐできる「事業計画書」のつくり方(日本実業出版社)」「トコトわかる株式会社のつくり方(新星出版社)」「世界一ラクにできる確定申告(技術評論社)」「一生食っていくための土業の営業術(中経出版)」など。その他、「経理ウーマン」「デイの経営と運営」など雑誌への寄稿や、商工会議所、中小企業投資育成株式会社、日本政策金融公庫などでの、セミナー実績も多数。

で観光するのがオススメです。

もちろん、何千もある寺院を全部見ることはできないので、事前にガイドブックで、行きたいパゴダを研究しておきます。ここは絶対に外せないというメジャーなパゴダから、保存状態が悪いので古い壁画がかすかに残っているだけというもので、選んだパゴダは10種類ほど。馬車の御者(?)さんに、ミャンマー語と英語で書かれた地図を見せて、行く順番を決めてもらったら、さー、出発です!

メジャーなパゴダに行くと、地面に民芸品を並べて売っている女の子や男の子たちがいました。で、気が付けば、いつの間にか後ろにぴったりついて、ガイドの押し売りをされているような気が…(汗)。他のアジアの国なら、何かを売りつけられるのが嫌で、できるだけ目を合わせないようにするのですが、ここバガンでは、どの遺跡に行っても、この「押し売りガイド」が決して嫌な感じがしないというか、むしろ思わず耳を傾けたくなるほど、面白いのです。プロの観光ガイドも真っ青なぐらい、そのパゴダに祭られている仏陀の由来や、壁画の意味などを教えてくれるので、ついつい質問までしてしまい、こうなると、相手の思うツボ(笑)。

それだけではありません。階段が急こう配な場所にくると、「ここ危ないから気をつけて」など、とても親切なのです。パゴダ内を一周し終わったあとは、「チェーズ・ティンバー・デイ(ありがとう)」というほど、打ち解けてしまい、「私のお店に、来て」と言われたら、さからうことができなくなっていました(汗)。

お店といっても、もちろん屋根があるわけではなく、入口からパゴダに入るまでの階段にそって、地面に民芸品が並んでいるだけの、露天商(?)のような感じ。仕方がないので、地面に座り込んで、手にとってみると、また、これがなかなか、可愛くて、「いくらなの?」なん

て、つい、こちらから質問までする始末です。←すでに、カモネギ状態(^^)

「え〜、もっとまけてくれたら買うわ」なんてアジアでは、お約束の値切り交渉をして、お買い物まで楽しんでしまいました。買ったのは、伝統的な絵柄のうるしのお盆とコースター。ジュエリーボックスをおまけにつけてもらい、しめて35ドルです。まさに一期一会、もう二度と会うことはない彼女なので写真をパチリ。楽しい旅の思い出は、しっかり心に刻まれました。

ところで、この話には、後日談があります。すっかり民芸品好きになった私は、ヤンゴンに戻ったあと、いわゆるお土産屋さん巡りにはまったのですが、びっくり!コースターと抱き合わせて買った、35ドルの「お盆」が、100ドルもするのを発見してしまいました!!!

ミャンマーは自国の観光資源の価値に気が付いていないので、まだまだ観光客の姿もまばらです。陽があたると傷んでしまうという理由で、電気がついていない真っ暗なパゴダもありました。懐中電灯の光の中にかすかに見える1000年前の仏陀の壁画など、いましか見られない貴重な遺産が、さわり放題、手の届くところにあります。

最近、成田ーヤンゴン間の直行便も、雰囲気が変わってきました。これまでのようにビジネスマン一色でなく、おしゃべりな観光目当てのおば様方が増えてきたからです。読者の皆さんも、今のうちにぜひ一度、ミャンマーにお宝を探しに、行かれてはいかがでしょうか?



可愛い「押し売りガイド」

新刊発売

ひと月3分、ムダ0確定申告

原 尚美・山田 案稜 著(技術評論社) 1,580円+税

経験や知識がゼロでも青色申告したい人のために、税理士が教えたくなかった最強の節約術を、フリーランス目線で解説した確定申告本。7割の人が見落としている経費や、落とせる経費と、落とせない経費のぶつちやけ境界線など、めんどろな申告を1秒でも早く終わらせたい、悩ましい経費の悩みをゼロにしたい人にオススメです。

